

第 71 回 JAMSNET-USA 定例会議団体活動報告

2023 年 11 月 16 日 木曜日 午後 4:30～6:00

Apple Time Family

最近は対面の活動も増え、嬉しいことに以前のような 色々なイベントをおこなうことができるようになってきました。

1) 秋のヘルスフェア「ホリスティックセルフケア：アーユルヴェーダの心と身体の整えかた方」

開催日時：9 月 15 日（金）

参加者： 日系人会会館対面 10 人+ズーム 26 人

講義とストレッチの体験をハイブリッドで開催。 会員でアーユルヴェーダ・セラピストの久保さんによる丁寧な講演会に多くの方から「とても満足」とのアンケート回答を得た。 一般の参加者が多く、地域貢献の活動となった。 アンケートの結果も 大半は満足していただけた。

2) ふくしなうとの交流会

開催日時：9 月 13 日（水）

障がい者施設利用者、職員の視察団 23 人と会員 6 人がランチをしながら日米の福祉事情の違いについて情報交換をした。

3) ニューヨーク・シティでの子供のイベント

開催日時：9 月 23 日（土） 20 名弱会員参加

Intrepid Museum（8:30～11:00）自閉症者向けのイベント参加。 ハドソン川でカヌー（14:00～）

4) NJ 補習校セミナー 「イライラしない子育て」

開催日時：9 月 23 日（土） 9:30～11:00

補習校の保護者対象、補習校副校長も参加してくださり、20 人弱参加アンケート結果「とても良かった」との意見多数。 お話し会後も残って質問や意見交換などが続き補習校でボーダーラインで困っている人の助けになったことを実感。 会の存在を周知する良い機会となった。入会申込があった。

5) タグセール

10月18日(水) 11時から12時半

準備 16日、17日 9時半から1時ごろ、 (18日 9時から片付け終了まで)
会員が総出で準備から品集め、販売までして1500ドル弱を売り上げて活動資金に当てる予定

6) ニューロダイバーシティ・コミュニティ 第26回目定例会

日時：9月30日(土) NY8~10AM 日本(土) 9~11PM

「脳内報酬系回路とドーパミン」 ~やる気の正体から依存の話まで~。
ドーパミンとセラトニン・オキシトシンの時間軸からマインドフルネスに至るまで。
ND視点での人間のある様の理解に繋げてわかりやすく解説をとどけることができ、久しぶりに喜んでもらえる会になった。

7) 会員の zoom おしゃべり会、対面送迎会

- 日時：9月19日(火) 10~12時位 ZOOM
- 日時：9/21(木) (会員の自宅)
- 日時：9月23日(土) マンハッタンの公園 (子供向けイベントのランチピクニックのとき)
- 日時：10月5日 (カフェ)
- 日時：10月30日 (NJ ネイチャーセンター)

【今後開催予定のイベント】

クリスマス会 12月9日3:00~7:00で会場予約

場所は前回と同じ ハリソン

子供の発表会 (歌、ピアノ、など)

藤谷 裕子

Sanctuary for Families

引き続き hybrid にてカウンセリングや法律相談をはじめ様々なサービスを提供。現在ホリデーシーズンに向けて様々な催し物や毎年恒例のホリデーギフト drive などの準備中。the BxFJC(Bronx Family Justice Center)にあるオフィスでは来年一月ごろからから週一でサポートグループ(Common Threads Project) をスペイン語で約六か月にわたって開催予定。これは刺しゅう、そしてその他のアート、治療的なゲームや簡単な体操、トラウマに関する心理教育などを盛り込んでトラウマからのヒーリングを図るもの。

東京ーフロストバレーYMCA パートナーシップ

2023. 11 Jamsnet

1. 利用実績

10月13日～15日 秋のファミリーキャンプ 5家族

・紅葉の美しいフロストバレーでのんびりとアウトドアアクティビティを楽しんだ。家族の絆を深め、子どもの成長をみんなで願う週末キャンプとなった。

2. その他

・J1ビザを利用して18カ月のインターンシッププログラムの募集を開始した。2024年春から2025秋まで、英語と日本語を使ってフロストバレーの大自然の中でインターンとして働く。社会人経験がある若者が対象。国際人としての足場を築く機会を提供していく。

日米ケア活動報告

2023年11月8日__日米ケア2023年8月以降の活動報告です：

1 サイコセラピストメンバー間でズームオンラインのケースコンサルテーションを毎月提供しております

2 コミュニティからのレファラル・問い合わせに対応しています。

3 来年、2024年春にStanford Universityで日系人コミュニティを対象としたメンタ

ルヘルス講座開催を検討している。

Care the World (ケア・ワールド)

Care the Worldでは海外にお住いの日本人ご家族の生活面、精神面、医療面、教育面でのサポート行っております。

海外出産・育児コンサルタントとして・・・ハイライトはゆいグローバルネットさま主催の10月6日に行われましたトーク、題しまして「世界の親たちが望む子どもたちの

未来」。ここでは今後グローバルに活躍するであろう未来の子どもたちに育てていきたい要素について、世界の親はどのような取り組みを始めているかについてお話いたしました。なかなかの盛況で、よい機会を与えられ感謝しております。9月にはシアトルのコミュニティー新聞の Soy Source に私のインタビューの記事が載りました。海外出産・育児コンサルタントというユニークな仕事の40年ほどの道のりを振り返ることができました。

カウンセリング室では・・・共働きによる work life balance における疲労による夫婦間、家庭内での不調和の相談が目立ちました。仕事はあきらめたくない、けれども家族は大切とどちらも compromise できないジレンマの中での葛藤をどのように切り抜けるかはチャレンジであると感じました。Couple's therapy の依頼も多いのですが、解決に至るまでは長い道のりであると感じます。

医療通訳としては・・・病院ばかりでなく、最近では学校へ出向くことも増え、未来の子ども達を育てるアメリカの教育現場を知る機会に恵まれ感謝しております。最近の傾向としては生徒たちに高いゴールを立て、それを目指して学校の現場でも家庭でも子ども達を励ます姿勢が目立つと感じました。

Womankind

10月を迎え、Teen 向けの一年のプログラムがスタートした。Teen 向けには毎週土曜日に行われるグループメンタリングプログラムと、リーダーシップ養成、ソーシャルジャスティスに力を入れた金曜日のプログラムとがある。いずれも若者が居場所と感じる場所を作ることと、トラウマを経て、大人になっていく過程を支援している。また、10月はDV啓蒙月間。Womankind ではコミュニティオフィスでのDVをテーマにしたイベントを数多く開催したほか、オンラインのアートギャラリーもオープンした。いずれもコミュニティにDVの問題に関して広報するほか、コミュニティがどう問題撲滅に関わっていけるのかについて考える機会になった。

また Womankind ではクライアントに向けて ESL を提供しており、新しいグループが10月に始まった他、クライアントたちが手に職をつけられるように企画している就労に特化したプログラムでは、初めてローソクづくりのクラスを設けたほか、そこで作られたローソクを Womankind の Gala でも活動の紹介として配った。

Womankind も今年で創設 41 年目を迎えた。パンデミックが収まり、対面で支援を受けるクライアントが増加傾向にある。 永尾

JB Line の活動

(2023 年 11 月 11 日現在)

サポートラインと直接支援：サポートラインでの相談と、さらに直接的な支援（ケースマネジメント）を行っています。直接的な支援ではシニアの方の生活の問題を解決することが続いています。

ハーグ条約・離婚・親権・DV：国際離婚の方のお手伝いを多くしています。

シニア訪問：現在約 20 名のボランティアが日系のシニアを定自宅と施設で定期的に訪問しています。

サポートグループ：シニアのおしゃべりの「わの会」と日本の歌を歌う「歌の会」をそれぞれ隔週 Zoom とハイブリッドで対面で行っています。

傾聴サポート：予約を取り傾聴をさせて頂いています。

ファンドレージング：

- ・今年もグラントを書いて申請を続けています。
- ・10月13日より29日までJB Line Week としてファンドレージングのイベントをさせて頂きました。今年は英語のプログラムも行い多くの方にご参加いただきました。この中で昨年のJCOP でいただきましたグラントでシニアホーム3件のツアーを行い、大変好評を頂きました。

JAMSNET ワールド

- ・JAMSNET ワールドに出席させて頂き「JB Line の邦人支援」というタイトルで、私どもの活動について発表をさせて頂きました。

・デュッセルドルフでは、frauenberatungsstelle という DV 被害にあった邦人女性の支援をしておられる団体を訪問、竹の会のお話を聞かせて頂いたり、また会の後ベルリンへ移り、当地のシュペネマンさんが活躍される日系シニア支援について学ぶ機会を頂きました。

新しいオフィスに引っ越しました

10月30日に新しいオフィス（92 Montvale Avenue #3600, Stoneham, MA 02180）に引

越しました。随分広くなりました。ボストンへお越しの際はぜひお立ち寄りください。以上です。

ニューヨーク邦人メンタルヘルスネットワーク活動報告

報告日：2023年11月 前回定例会（2023年8月）からの活動報告

1 メーリングリストによるメンバー同士の情報交換を常時行っています。メンバー各々の専門分野

での有益なウェビナーや文献などの情報、リファーマル情報、日本の事情など、様々な情報を共有し

ています。

2 JAMSNET ホームページの「COVID-19 パンデミック中の心のケア」での無料メール・電話相談を引き続き行なっています。子どもに関する相談はNY日本人教育審議会教育相談室でバーンズと森が、DVに関する相談はWOMAN KINDの永尾氏が、それ以外の大人の相談は他のメンタルヘルスネットワーク有志で受け付けています。

3 ニューヨーク邦人メンタルヘルスネットワーク会合

年明けの1月27日土曜日に Skill-Up Series 第7回目として「トラウマ治療」を取り上げ、メンタルヘルス臨床家を対象に3時間半のオンラインワークショップを行う予定です。

4 JAMSNET-WORLD ワールド会議@ドイツ・デュッセルドルフ

9月30日 「メンタルヘルスネットワークの立ち上げに向けて」という分科会において、午後の一般参加も含む勉強会にて、メンバーのバーンズ亀山静子氏が、米国のメンタルヘルスサービスとNY邦人メンタルヘルスネットワークの活動について紹介しました。アメリカ、カナダ、ドイツ、スイス、フランス、日本からの活動報告もあり、参加者により活発な話し合いが行われました。会場参加者47名、オンライン参加者60名

5 メンバーによる主な活動

コミュニティ活動

9月

日系人会・JAMSNET 共催 秋のヘルスフェア

保護者向けウェビナー及び無料個別相談

森真佐子 クリニカルサイコロジスト「新学期にまつわる子どもの心のケア」

バーンズ静子 スクールサイコロジスト「新学期のより良い学校生活・学習サポート」

Webinar 参加者23名、無料個別相談5名

新学年・学期のはじめは、また学校にうまく馴染めるか、子どもも親も不安を感じやすい時期です。

家庭での効果的な学習と心のサポート法について紹介しました。参加者の感想には「自分にできる具体的な子どものサポート法について専門家から直接聞けて安心できた」などの声がありました。

ニューヨーク補習校 LI 校

バーンズ亀山静子 スクールサイコロジスト

保護者対象ワークショップ「子どものせいにしない支援の仕方」

日本語での学習は限られた時間の中でやらざるを得ない補習校ならではの共通の悩みを取り上げました。参加者 25 名

10月

ニューヨーク育英学園

バーンズ亀山静子 スクールサイコロジスト

教職員研修「学びのユニバーサルデザイン」

参加者 8 名

11月予定

ニューヨーク日系人会企画「ホープ・アゲインスト・ヘイト・キャンペーン」

ウェビナー及び無料個別相談

窪田絵里 ヘルスサイコロジスト「コロナがもたらした Quality of life の変化」

コロナ以降アジア人に対するヘイトクライムが頻発する中、心の QOL (Quality of life) を保つ方法について紹介されます。また「以前のように気軽に外に出られない」、「何かと気分が落ち込みがち」という声も多い中、無料で個別に相談を受付けます。

学会発表

9月

日本心理臨床学会

バーンズ亀山静子 スクールサイコロジスト

シンポジウム：「海外在住の特別なニーズがある子どもとその保護者を取り巻く環境及び求められる支援—シンガポールとニューヨークの比較から」

シンガポールの心理士、欧州で活動された心理士、アメリカのスクールサイコロジストの企画で行われたこのシンポジウムでは、外国人が受けられる支援サービスは国によって大きな違いがあることや、子どもを外国に送り出す前、外国から受け入れる時の注意点など、日本にいる心理士にとって必要な情報を提供でき、子どもたちの環境を整えるために意義あるものとなりました。(参加者：50名ほど)

11月

多文化間精神医学会

バーンズ亀山静子 スクールサイコロジスト

シンポジウム：「海外邦人メンタルヘルス支援の世界展開に向けて」

JAMSNET—USA の NY 邦人メンタルヘルスネットワークのできた理由、目的や活動内容について報告しました。

JASSI (Japanese American Social Services, Inc.)

・10月26日(木) 創立42周年記念 JASSI ベネフィット・ディナー・イベントの開催いたしました。Special Performer にミュージシャンの矢野顕子さんの生演奏や、サイレントオークションもお楽しみいただき、115名の皆様にご参加いただきました。

対面茶話会とリモート茶話会は継続して行われております。

今後の予定

NY州から Asian American Federation (AAF) を通し、2023年11月と12月に新しいプログラムを行います。Social Services の助成金からは、個人、ご家族、ご高齢者を対象に Food Pantry やギフトカードを配布し、ご自宅から外出できない方々には Food Delivery を行います。その他、Hope Against Hate Campaign の助成金から、武道家の本間雅彦先生を講師にお呼びし、護身術のトレーニングをします。参加者の方々には、パーソナルアラームや特性マグネットなどを配布させていただきます。

詳細は JASSI のメールや Web サイトでご紹介しております。

OTA

日時	場所	イベント	主催者	メモ
9月23日、土曜日、11-12時	ズーム	OTA月例折り紙ワークショップオンライン	OTA	インストラクター；ロッシェル マッセ、ユンホンパーク
10月8日、日曜日、1日中	ズーム	メンタルヘルスシンポジウム 基調講演：折り紙セラピーにつ	折り紙ナイジェリア、OTA	インストラクター；小林利子、ユンホンパーク
10月20日、金曜日、11-4時	ニューヨーク公共図書館	ニューヨーク公共図書館によるアクセス可能な地域社会、文化、テクノロジー	ニューヨーク公共図書館	インストラクター；アルド プティグナノ、ユンホンパーク
10月21日、土曜日、11-12時	ズーム	OTA月例折り紙ワークショップオンライン	OTA	インストラクター；ロッシェル マッセ、小林利子
11月19日、土曜日、1-2時	ズーム	OTA月例折り紙ワークショップオンライン	OTA	インストラクター；まなべあゆみ、カミラ アギメヤス

ニューヨーク日本人教育審議会教育相談室 (2023年9月～2023年11月8日)

前回（2023年8月）以降の活動報告をいたします。

1) 無料電話・メール相談

- 新学期・新学年が始まり、学校に関して学習や学校適応の相談が多くなっています。
- 通常無料電話相談の他に、「パンデミック中の心のケア」の子どもとその家族への対応を電話とメールで引き続き行なっています。
- 電話やメール相談は、パンデミック以前からの内容（Special Education のシステムに関する問い合わせ、発達障害の疑い、親子関係やしつけの問題、不登校、学校選び、学校との付き合い方、学習の問題等）が主になっています。
- 相談者の居住地もニューヨーク近郊にとどまらず、他州からの相談もあります。またアメリカ、日本以外の国からの相談も入ってきています。

2) 面接相談・基本的に相談室での面談をしています。ただ、コロナ禍で始めたオンラインの利便性も活用して With Corona の新しい在り方としてご希望によってオンラインでも行っています。

3) ワークショップ等

<ワークショップ>

・9月16日(土)にニューヨーク補習校1校にて保護者対象のワークショップ「子どものせいにしない支援のしかた」を開催しました。日本語での学習は限られた時間の中でやらざるを得ない補習校ならではの共通の悩みを扱いました。(参加者:25名)

・10月20日(金)にニューヨーク育英学園にて教職員対象の「学びのユニバーサルデザイン」に関しての研修をしました。(参加者:8名)

<ウェビナー>

・9月18日、日系人会とJAMSNET共催のヘルスフェアで、「新学期のより良い学校生活・学習サポート」「新学期にまつわる子どものこころのケア」のタイトルでウェビナーを開催しました。(参加者:23名)

<無料個別相談>

・9月18日、無料オンライン個別相談を実施しました。(参加者:5名)

<学会シンポジウム>

・9月22日(現地23日)、日本心理臨床学会において「海外在住の特別なニーズのある子どもとその保護者を取り巻く環境及び求められる支援—シンガポールとニューヨークの比較から—」というタイトルで、シンガポールの心理士、欧州で活動された心理士、当相談室のスクールサイコロジストによるシンポジウムを行いました。(参加者:50名ほど) 外国人が受けられる支援サービスは国によって大きな違いがあることや、子どもを外国に送り出す前、外国から受け入れる時の注意点など、日本にいる心理士にとって必要な情報を提供でき、子どもたちの環境を整えるために意義あるシンポジウムになりました。

・9月30日、デュッセルドルフで行われたJAMSNET-WORLDにおいて、「メンタルヘルスネットワークの立ち上げに向けて」という分科会での開催と、午後の一般参加も含む勉強会にて、米国のメンタルヘルスサービスとJAMSNET-USAのNY邦人メンタルヘルスネットワークの活動に関して報告をいたしました。

・11月5日、多文化間精神医学会で「海外邦人メンタルヘルス支援の世界展開に向けて」というシンポジウムでJAMSNET-USAのNY邦人メンタルヘルスネットワークのできた理由、目的や活動内容について報告しました。

4) 今後の活動

- ・11月13～15日に、福島県相馬市で相馬高校、相馬農業高校、会津に避難していて今年から大熊町に戻った大熊町の小・中学校である「学び舎ゆめの森」学園に支援者支援で訪問予定。
- ・12月5日、ニュージャージー日本人学校で、学外の一般の方向けに、「言語や文化の異なる環境での子育て」に関するミニレクチャーと無料個別相談を行う予定。

AAADA

2023年10月 AAADA 活動報告書

報告書提出日	2023年11月2日
団体名	Asians Against Domestic Abuse, Inc.
報告期間	2023年9月1日～10月31日

アウトリーチ活動、広報活動等

- ヒューストン総領事とAAADAを含む邦人サポートの方たちとの会食(10/6)
 - 8月にAAADA会長のSharma夫妻が、ヒューストン総領事を昼食にご招待した会食のお礼も兼ねて、総領事よりAAADA会長夫妻と日本人スタッフを公邸に招待頂く。生憎、AAADA会長夫妻がしばらく国外に滞在していることを受け、ヒューストン近郊で邦人サポートをされている方々と一緒に会食にお招き頂き、実際の邦人支援についての情報を交換を行う。
 - 会食の場では、上記の情報交換に加え、総領事を含めそれぞれの活動、仕事への疑問点を率直に聞き合うなど、お互いをよく理解する非常に有意義な時間となった。
 - 総領事が当団体の活動に強い理解や興味を持って頂いており、今後、新領事が来られた時や、AAADAへ新しいスタッフが加入する時など折に触れて対面でのお話ができるよう配慮していただき、良好な関係が築けている。
- ボランティアスタッフと新規スタッフ募集(10月頭より)
 - 日本人クライアントが増えて来たこと、ケースマネージメントをスタッフ1人に対応するのが難しくなって来たことを受け、新規スタッフ採用を行う。
 - また、同時にこれまで公に募集していなかったボランティアスタッフの募集も行う。
 - スタッフ募集ではあるが、募集のパンフレットなどを日本人が目にするであろう場所各所に出すことで、当団体の存在をより多くの人に知ってもらう機会となり、10月30日現在、ボランティア/スタッフへ20件以上の応募があった。
 - 特にボランティアへの応募者(全員日本人)は、こちらが想定していた「通訳・翻訳」のみならず、日本で法律事務所働いていた方、他州の移民弁護士をされている方、元DVサバイバーの方などそれぞれができることで貢献して下さる意思のある方ばかりで、既存のボランティア活動に留まらずに力を貸していただけるような体制を今後作っていきたいと思っている。
- ヒューストン総領事館訪問(10/24)
 - お世話になっている領事が帰任になることもあり、最後のご挨拶及びオンライン上でしかお話をすることがない領事部の方々への挨拶も兼ねて、訪問。
 - 現在の日本人クライアントさんの状況を簡単にお伝えし、今後新規スタッフを迎え入れる予定などを伝える。
 - 今後も領事館との研修を含め、知識の共有と参加者同士でのコミュニケーションを活発にし、交流を深めていきたいと考えている。
- 日本人カウンセラーとの連携
 - 元々1時間/月のグループセッションを提供していたが希望者が集まらなかったため、30分個別×2月に変更。その後はコンスタントに希望者有り。時間が短いことを除けばクライアントさんの満足度は非常に高い。
 - また、緊急度、重要度が高いクライアントさんに関しては、50分の定期カウンセリングを少なくとも隔週に1度提供できるよう対応。
 - 最近は担当していただくクライアントさんの数が複数であること、個々の

ケースが複雑であることもあり、必要に応じてミーティングを行い、情報・意見交換を行っている。非常に密で良好な関係を築いている。
○ また、日本人コミュニティ内でお話をする機会があった時に、当団体の紹介もしてくれるなど、アウトリーチにおいてもお力添えを頂いている。

クライアント対応

- AAADAはテキサス州ヒューストン周辺を支援対象としているが、他市や他州から相談が入った場合にも柔軟に対応している。今期は前期に他州から当団体を頼って移ってきた深刻なケースと新規案件が重なり、日本人アドボケイトだけでは対応が難しい部分を、必要に応じてチーム対応で支援を進めている。

今後の課題

- DV被害者の避難施設における共同生活のコンフリクト。
 - 前回と同様になるが、AAADAはDV被害者の避難場所として複数の施設を有しているが、場合によっては全く面識の無いクライアント同士が共同生活を送ることがある。この際に、日常の些細な違和感や価値観の違いによって少しずつ発散することが難しいストレスが蓄積されるという現状がある。
 - 入居の際、苦情をいつでも出せるよう書類も添えているが、直接大きな被害を被るようなコンフリクトではないため、また、日本人の波風をなるべく立てたくない文化的な背景もあるのか、正式な形では出てきていないため、Advocateが関係性を壊さないようそれぞれから聞き取りを行い、共通ルールを作る方向。
 - また、個々人にバウンダリーについて知識を持ってもらうようリソース等を提供している。
- マンパワーの不足
 - 邦人の方に関しては対面支援が可能なヒューストンよりも、他市や他州からのクライアントの方が総合的に見ると多い。AAADAは、英語が堪能なクライアントばかりではないので、日本人Advocateのマンパワーが圧倒的に足りず、また受け入れの場所、グラントによる経済的な支援(現金支援、Transitional Housing Program)等もかなり限られており、長期的な課題となっている。
 - 11/1現在、新規スタッフが決まり、これから日本人Advocate2人体制で支援を行っていく。それを受け、これまで手が回らなかった日本人コミュニティ、企業などアウトリーチに力を入れ、財政的な部分の一部解消に繋げていきたい。
- 被害者の子供たちへの支援について
 - クライアントである親への支援を行う中で、同じく、もしくはそれ以上に被害を受けている子供達へのダイレクトな支援が団体内に存在しない状況を危惧している。
 - 子供の心のケアなどを第三者機関にお願いすることも考えているが、クライアントである親たちがその必要性を深く理解している人が残念ながら少ない状況。第三者機関に繋ぐとしても、親の同意を取らなければいけないため、そこをどうやって突破するかが課題である。

フィラデルフィア日本人会

1. 第22回東和エッセイコンテスト

6月上旬、第22回東和エッセイコンテストの募集を開始。補習授業校、日本語学校全6校および一般より、中高校生に応募を募り8月31日に応募を締め切った。今回はこれまでの記録を上回る応募者数であった。12名の審査員による第一次審査が行われ、年末には最終審査が終了し、すべての受賞者が決定する予定。2024年1月13日オンラインによる授賞式を実施する。審査委員長は、フィラデルフィア日本語補習授業校の根路銘取校長。

2. 和の交流シニアコミッティによる英語茶話会

8月16日(水)に第7回英語茶話会がメンバー12名参加のもとオンラインにて行われた。映画「Oppenheimer」の上映をし、作家のJohn McCabe氏のリードのもと、原爆の問題を参加者で討論した。重要な質問がいくつか上がり、議論は盛り上がった。参加者メンバーは皆同様に、原爆の議論を封じ込めてしまうのではなく、後世に残すためにあらゆる情報と手段を使って伝える責任を感じた会となった。10月11日(水)に第8回英語茶話会がメンバー9名で今年初の対面で行われた。フィラデルフィア市内のレストランでランチの集いをされ、天候にも恵まれ素敵な会となった。

3. 和装でランチ

10月27日(金)に行われた懇談会。小春日和の晴天の中、華やかな着物と浴衣で装った女性陣と、法被、作務衣で装った男性陣の併せて10名が集まった。フィラデルフィア市内にあるレストランで行われ、シェフが用意した3つのお料理からなるコースを堪能した。日常では着慣れない和装を着るのに、当日の朝苦戦した人もいたが、和装の美しさを再確認することができ、有意義で暖かい交流会となった。

4. 認知症についての正しい理解と最近の話題(新薬、予防、対応)セミナー

11月4日(土)にオンラインセミナー「認知症についての正しい理解と最近の話題(新薬、対応、予防)」が開催された。今回は徳島大学大学院臨床神経科学(脳神経内科)の和泉唯信教授を講師にお招きし、60名を超える参加者を得た。アルツハイマー病を中心に、認知症とは何か、その診断と治療、予防、認知症になった方への対応について詳細かつ大変分かりやすい内容で、参加者には好評であった。

CJCAT

JAA 主催の第 17 回秋のヘルスフェアで、
Apple kids と共催で「親子向け音楽とアート」の体験型ワークショップ、
CJCAT 単独主催として「大人向けの曼荼羅を使った体験型自分との対話セッション」
を行いました。

YM ネットワーク

引き続きメンバー各自で活動を行っている。

もみの木

〈親子お話し会〉

第 1、3 火曜日

午前 10:30 から 1 時間程度

手遊び・触れ合い遊び・わらべうた遊び・絵本・リトミック・人形劇・パネルシアター
のお話し会やクラフトの時間と外遊びの時間を持ちながら、保護者同士のつながりが持て
るようにおしゃべりを楽しみながら、お弁当をいただき解散

開催日 参加子供人数

9月5日 (子供9人)

9月19日 (子供10人)

10月17日 (子供12人)

〈図書の貸し出し〉

2023 年度もメリーランド州のたんぽぽ学園日本語幼稚園・小学部低学年に貸出し
赤ちゃん絵本 貸出あり

〈中学生・高校生ボランティア〉

日本語でお手伝いの必要のあるグループや個人を対象に、日本語で読み書きなどの対応
が可能な中学生・高校生のお手伝いを送るサービス。中高生は、ボランティアサービス
の時間を得て、カウンティに提出することができる。

2023 年 9 月から

9 人の中高生が参加

延べ 11/4 現在

246 時間のボランティア時間

〈子育てセミナー〉 9/16(土曜日)

「スキンシップの大切さ、小学生になっても！」一時政美耶
アロマセラピスト、ベビーマッサージ講師、幼稚園教諭

〈コミュニティビルディング〉

小さいお子さんを持つご家族でキャンプファイヤーの夕べ

11月4日 16:00-18:00

34 家庭が参加

プログラム

- ・ミニお話し会
- ・トレイル散歩
- ・ジェンカ ゲーム
- ・キャンプファイヤーを囲んで夕食
- ・キャンプファイヤーの歌

解散

NY de Volunteer

1. Japan Club @ Leaders High School を発足

NYdV は、Japan Foundation NY から日本文化を広めるプログラムを実行するマネージャーに対する給与のアシスタント援助金を受取り、新しく日本文化交流の為のプログラムを企画、実施を9月から始めました。去年から始めたブルックリンの低所得地域の学校リーダーズハイスクールでの日本文化紹介を強化、より充実したプログラムにする Japan Club@Leaders HS を発足するに至りました。プログラムの主軸になるのは、日本文化を通して、心身堅固な若者に成長していただくことで、NYdV のスタッフ、ボランティア達が力を合わせて実現するように取り組んでいます。具体的には、健康な日本食のクッキングクラスを数回、Eye hand coordination を促進する日本のゲーム；けん玉、お手玉等の紹介、心を癒す生け花、人との静かな一期一会の交流を教える茶道、等を計画しています。その幕開けに11月21日には、手巻き寿司と、味噌汁の作り方のクラスを実施しました。NYdV から5人、ボランティア4人にとっても、非常に充実した時となりました。Leaders High School の校長先生からも、ボランティア達からも今後の大きな期待が寄せられました。



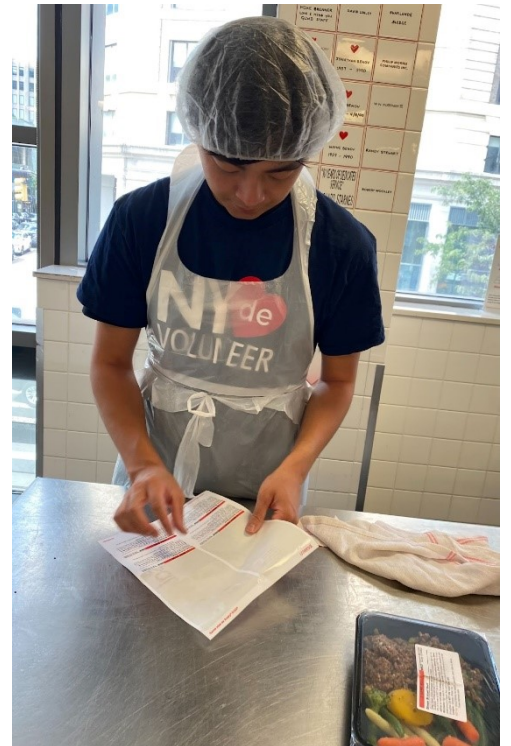
Japan club @ Leaders HS 第一日目、手巻き寿司と味噌汁の作り方 11月21日

2. Soup Kitchin

9月17日日曜日スープキッチンでのお手伝いをしました。スタッフ、ボランティアを含む13名はスープをプラスチックの容器に入れて蓋をする係を任されました。熱々のスープを入れてすぐ蓋をすると蒸気で膨らんでしまうので、一度閉めた蓋を少し開けて空気を押し出して再度蓋を閉めるという手順を教えてもらい、作業開始です。



もう少しでスープが無くなりそうになると、施設の方がキッチンの奥の方から次のお鍋を運んできてくれます。聞いてみると、この日のスープの目標数はなんと 14,000 杯！オリエンテーションでは競争ではないから自分のペースでゆっくり作業して～と言われましたが、要領をつかむと楽しくなり、自然とペースが上がっていきます。作業の効率が良かったからか、途中からお弁当におかずを入れたり、シールを貼るテーブルへ移動したグループもありました。



参加者はほぼ全員初対面でしたが、和気藹々と会話しながら流れ作業を楽しむことができました。ユニークなバックグラウンドを持つ他の参加者と知り合うことができる、というのもグループボランティアの醍醐味です。また、淡々と作業をしていると、毎日これだけ多くの食事を無償で提供するには、膨大な数のボランティアが必要なことにも気付かされました。ニューヨークは治安が悪い、怖いというイメージを持っている方も多いと思いますが、実はこのような団体が存続できるほどボランティアをする人が多い・助け合いの精神のある街でもあります。そんなニューヨークの温かい一面に気付かされる機会にもなりました。

週末開催を待っていたというフィードバックをたくさん頂きましたので、今後もこのような機会を作っていきたいと思います。

3. Global Study Tour（金沢泉丘高校、Avanade 社訪問）の実施

10月に石川県立金沢泉丘高校40名が1週間の研修旅行にNYを訪問し、NYdVは現地での企業視察として現地のIT企業としてAIを使ったコンサルティング会社の大手、アバナード社での講義、視察、技術紹介の訪問をアレンジしました。この中には、現地で働くビジネスで活躍する社員などがボランティアとして、日本の高生に情報、思いを伝える時間も設けてあり、毎年、日本の学校の先生方から感謝されています。

以上 17団体から報告